

ロシアvsウクライナ情報戦の最前線で起こっていること

LOSING THE PROPAGANDA WAR

2022年3月16日（水）14時15分

イアン・ガーナー（歴史学者）

114

1



ゼレンスキーの熱いメッセージはロシアでも急速に拡散している UKRAINIAN PRESIDENT OFFICE-REUTERS

＜ゼレンスキーはロシア語で語り掛け、真偽不明のウクライナの物語はロシア国内でも効果を上げている。プロパガンダ戦でも劣勢に立たされるロシアが最後に頼るのは、ベラルーシ式のアプローチか＞

戦争が始まって半月余り。ロシアは戦場でもプロパガンダを駆使した情報戦でも劣勢に立たされている。

軍事的な抵抗も民衆の反対も徐々に引いていくだろうと、ウラジーミル・プーチン大統領は考えていたのかもしれない。しかし、その希望は消えつつある。

広告



ウクライナはソーシャルメディアを通じて歴史的な物語を広め、国内の結束を強化するとともに、戦争の価値について意見が分かれるロシア人に不満を植え付けている。

ヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は首都キエフから、臨場感あふれる動画を次々に発信。ロシア軍が侵攻しても自分と閣僚はとどまると主張している。

冷静に、自身の母語であるロシア語でロシア国民に語り掛け、平和を訴える。ウクライナがロシア語話者を弾圧しているというプーチンの大仰な主張を考えれば、これは重要な振る舞いだ。

対照的に、プーチンの演説は今のところ事前に録画されたもので、人々に「あなた」ではなく「国民」と呼び掛ける。自分の側近とさえ、途方もなく長いテーブルの端と端で話をする。普段の男らしい行動派というイメージからは程遠い。

ゼレンスキーは3月3日の記者会見で、プーチンに交渉の席に着くようロシア語で呼び掛けた。

「私と座って話をしよう。（仏大統領エマニュエル・）マクロンや（独首相オーラフ・）シオルツと会ったときのように、30メートルも離れる必要はない.....私はあなたの隣人だ.....かみついたりしない。私は普通の男だ.....あなたは何を恐れているのか」

一方、ウクライナでは至る所で、「ロシア軍と勇敢に戦う普通の人々」という戦争神話が生まれている。

開戦直後からロシア軍機を立て続けに撃墜したというウクライナ空軍の戦闘機パイロット「キエフの幽霊」。黒海のスネーク島の守備隊はロシア軍の脅しに屈せず、艦砲射撃で全員が殉死したとたたえられた（実際は生存していた）。

こうした神話がソーシャルメディアで瞬く間に拡散されるときに、その真偽は関係ない。勇敢な指導者や部隊の物語は、ロシアへの抵抗の下にウクライナ国民を団結させる強力なツールになっている。



wildpixel-iStock.

「戦意高揚」に突き進めない

さらに重要なのは、ウクライナのメディアの猛攻撃が、ロシア国内でも効果を上げていることだ。

ゼレンスキーの動画やウクライナ軍の英雄たちの物語は、ロシアで月間3800万人のユーザーを数えるテレグラムなどのソーシャルメディアで、野火のごとく広まっている。

ゼレンスキーの3日の演説は、ロシアで人気のラッパー、モルゲンシュテルンがテレグラムで運営するチャンネルで30万回以上、視聴された。

次のページ ロシア当局は「キエフの幽霊」神話を攻撃

1

2

3

4

[次のページ](#)

ロシアvsウクライナ情報戦の最前線で起こっていること

LOSING THE PROPAGANDA WAR

2022年3月16日（水） 14時15分

イアン・ガーナー（歴史学者）

114

1

ロシア政府が管理する国営メディアの視聴者は、テレグラムのようなプラットフォームを利用しない高齢者層が中心だ。これらの新聞やテレビは、ゼレンスキーの情熱的な演説も、ロシア人と西側に向けた訴えも、ほぼ無視してきた。

しかし、ロシア当局は「キエフの幽霊」神話を攻撃し始めている。ロシア連邦共産党機関紙のプラウダは、「実在の人物というよりプロパガンダの神話に近い」と断じた。

ニュースサイトのスボボドナヤ・プレスはパイロットの名前を具体的に挙げ、2014年にウクライナ東部のドンバス地方で分離独立派がウクライナ軍と戦闘に発展した際に、ロシア人を爆撃した兵士だと非難した。

ロシアのプロパガンダ機関は、「キエフの幽霊」が年配のメディア消費者にも広がっていると考えている。それは、親ウクライナの情報が、ソーシャルメディアから広がっているということだ。

ただし、ロシア政府は今もかたくなに、この戦争を「特別軍事作戦」と呼び続けている。そのため、長く困難な戦いになりそうな紛争に対して国民の熱意を鼓舞しようにも、思うようにいかない。

2015年に政府の支援を受けて創設された準軍事組織の青少年軍は3月1日に、「ウクライナ領内で特殊作戦を遂行中の兵士」に感謝の手紙を書こうと呼び掛けた。

この投稿に付いた数百件のコメントの大半は肯定的だが、懸念や混乱を示す内容は即座に削除されている。中には、「戦争をしていないのに兵士に手紙を書けるのか？」と問う人もいた。

国民の戦意高揚を図る一方、侵攻ではないと言い張るといふばからしいほどの矛盾に、ロシアの国営メディアは苦境に陥っている。

週刊紙「論拠と事実」は旧ソ連時代には進歩的な報道で当局ににらまれたものだが、3月3日付の記事で最も読まれたトップ5は、軍事3本（ウクライナ軍が自国民を攻撃か、ウクライナが核兵器開発を計画か、ゼレンスキーがプーチンに降伏か.....と仮定や想像の話ばかり）と金融2本（物価上昇に伴う年金支給額引き上げ、インフレ率上昇を受けてローン返済一時停止の提案）だった。

旧ソ連時代から一貫して政府べったりのプラウダに至っては、そうした金融関連の悪いニュースを一蹴するかのようだ。

物価上昇は制裁とは無関係、欧米企業の撤退は彼らの短慮の表れ、制裁は原油価格を上昇させるだけでロシアに味方し、欧米には打撃.....。ウクライナ側が普通の人々の勇敢さをアピールしているのとは対照的に、新帝国主義的で弁解がましい内容で、戦争に対する世論の支持拡大は難しいだろう。

次のページ **ベラルーシと中国が手本に**

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)

[4](#)

[次のページ](#)

ロシアvsウクライナ情報戦の最前線で起こっていること

LOSING THE PROPAGANDA WAR

2022年3月16日（水） 14時15分

イアン・ガーナー（歴史学者）

114

1

ベラルーシと中国が手本に

世論はどうあれ、プーチン政権は情け容赦ない報道統制に乗り出しているようだ。

3日にはロシア最後の独立系ラジオ局「モスクワのこだま」が解散に追い込まれ、独立系テレビ局ドーシチも放送を休止。最後の番組の放送後、画面はチャイコフスキー作曲の『白鳥の湖』のバレエ映像に切り替わった。

旧ソ連時代、危機が発生した際や指導者が死去した際に流れた映像だ。「良くないこと」が起きたときに流れることでおなじみの映像を使い、最後の「抵抗」を示したということだろう。

ロシア政府はソーシャルメディアへの規制強化を図っている。通信・情報技術・マスコミ監督庁はツイッターとフェイスブックへのアクセスをブロックすると発表、YouTubeについても検討中だ。

4日には、ロシア軍の活動に関するフェイクニュースを流した場合は最長15年の禁錮刑を科す法案にプーチンが署名。偽情報好きな政権が現実とフェイクニュースをどう区別するのか、進歩的な勢力には謎だ。

一方、出国しようとしたロシア国民は、国境警備員からスマホなどのロックを解除して個人的なメッセージやテレグラムのチャンネルを見せるよう強要されたと報告している。

プーチン政権は独立色の強いテレグラムをはじめ外国のソーシャルメディアへのアクセスを完全に遮断することに苦戦しているのかもしれない。そうした検閲が技術的に可能なのか、懐疑的な見方は根強く残るだろう。

ロシアの技術力は中国に遠く及ばない。その中国でも独自のインターネットサービスを完成させ、世界のほとんどをシャットアウトするまでに10年以上を費やした。

プーチンには隣国ベラルーシのルカシェンコ政権の行動が参考になるかもしれない。ベラルーシでは反体制派が抗議デモの際にテレグラムのチャンネルで反政府的な情報を公開した。

ルカシェンコ政権の治安部隊は、望ましくない情報を拡散したとして一般ユーザーを手当たり次第に拘束。テレグラムを用いた報道チャンネル「ネクスタ」の創設者で反政権派のロマン・プロタセビッチを拘束するため、彼が乗っていた航空機を強制着陸させるなど、計画遂行のためなら手段を選ばない。

ベラルーシの治安維持システムの恣意的なアプローチと、中国のようなITを駆使した大衆監視システムをもってすれば、今回のプロパガンダ合戦でロシアにも勝ち目はあるかもしれない。

これはロシア市民と言論の自由にとって恐ろしい措置であり、全権を掌握した独裁者のすることに思えるかもしれない。

だがプーチン政権の当初のシナリオは違った。紛争はロシア軍の楽勝、ウクライナ側の反ロシア勢力は跡形もなく消え去り、国民は救世主ロシアという幻想の下で結束する……。

しかし現実には、このプロパガンダ合戦でプーチンは明らかに守勢に回り、最後の抵抗を試みているのだ。

From Foreign Policy Magazine

次のページ プーチンとマクロン「30メートル」のテーブル

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)

[4](#)

[次のページ](#)

ロシアvsウクライナ情報戦の最前線で起こっていること

LOSING THE PROPAGANDA WAR

2022年3月16日（水） 14時15分

イアン・ガーナー（歴史学者）



プーチンとマクロンが会った際の（ゼレンスキー曰く）「30メートル」のテーブル
CBC News: The National-YouTube

【話題の記事】

動画：プーチン「パーキンソン病説」が再浮上

ロシア軍の実力は「起きなかったこと」に注目すれば分かる

※画像をクリックするとアマゾンに飛びます



2022年3月29日号（3月23日発売）は「賃金停滞ニッポン」特集。世界から取り残され何十年も給料が上がらない日本。その根本的原因と対処法は？ PLUS：投資初心者の資産形成術

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)

[4](#)